営農インフォメーション

水稲

有効茎数の早期確保と病害虫防除を

育苗期間は播種時の低温により出芽揃いも遅れていましたが、気温の上昇とともに生育も回復に向かい、田植え後に天気が回復したことから、苗の生育もおおむね良好に推移しています。

☆中干し管理～溝切り

あきたこまちの場合、６月２５日頃が有効茎決定期となります。目標穂数と同数の茎数を確保したら、すぐに中干しを実施して過剰分げつを抑え、充実した太い茎の確保に努めて下さい。中干しは期間７～１０日くらいで、圃場に軽く亀裂が入り、足跡のつく程度とします。中干し始めに溝切りを行うと、その後の水管理や秋作業がスムーズに行うことができます。

☆葉いもち防除

田植え時に箱粒剤を使用しなかった場合には、オリゼメート粒剤を散布します。６月１５日頃を目安に、１０ａ当たり２ｋｇを散布してください。

☆中期除草剤

使用時期	使用薬剤	使用量／10a	使用回数
移植直後～ノビエ３葉期 但し移植後30日まで	ヒエクリーン1kg粒剤	1kg	1回
移植後15日～35日 但し収穫60日前まで	バサグラン粒剤	3kg	1回
移植後15日～50日 但し収穫50日前まで	バサグラン液剤	500~700 mℓ 100 ℓ	2回以内
移植後20日～ノビエ6葉期 但し収穫30日前まで	クリンチャーEW	100 mℓ 25～100 ℓ	2回以内
移植後25日～ノビエ5葉期 但し移植後30日まで	クリンチャー1kg粒剤	1.5kg	2回以内
移植後15日～ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで	クリンチャーバスME液剤	100 mℓ 70～100 ℓ	2回以内
移植後20日～ノビエ5葉期まで （イネ5葉期以降）但し収穫30日前まで	ワイドアタックSC	100 mℓ 100 ℓ	2回以内
移植後15日～ノビエ3.5葉期 但し収穫60日まで	ハイカット1kg粒剤	1kg	1回
移植後25日～ノビエ5葉期 但し収穫60日前まで	フォローアップ1kg粒剤	1kg	1回
移植後20日～ノビエ5葉期 但し収穫60日前まで	ワイドパワー粒剤	3kg	1回

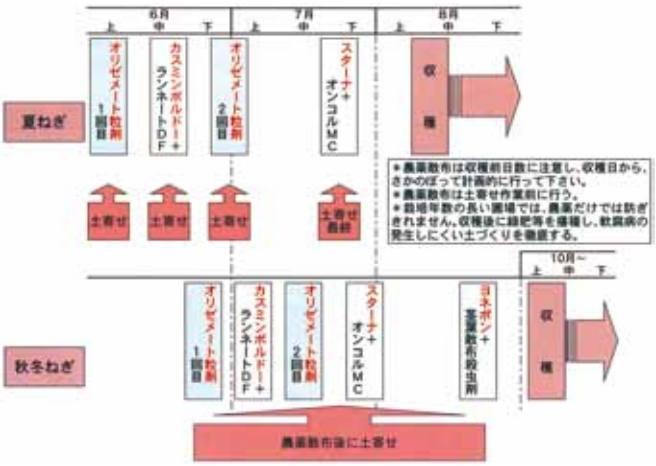
☆カメムシ対策

カメムシによる米の品質低下を避けるため、その発生源のあぜ道や農道などの雑草の草刈りが重要です。６月上旬～７月中旬ごろまで定期的に草刈りを行い、水田へ侵入する前に増殖を抑制します。さらに草刈りの７～１０日後（雑草の草丈１０ｃｍ程度）に雑草抑制剤のグラスショート液剤を、２００倍で散布するとより効果的です。

ねぎ

夏ねぎの病害虫対策について

☆軟腐病対策～防除例～



☆べと病

特徴として、一旦発病すると病害の広がりが早く、あっという間に被害が大きくなります。圃場の中でも排水の悪いところに坪状に発病し、そこから被害が一気に広がります。

防除のポイントとしては、予防防除が肝心です。発病してからの防除では被害を抑えるのは難しく、防除回数も増えてしまいます。べと病が発生する前に、効果のある薬剤を計画的に散布して下さい。重点防除時期は、発病適温となる前の６月中旬と１０月中旬です。

☆ネギアザミウマ防除

発生が増加する６月中旬から７月中旬にかけて、殺虫効果の高い薬剤を１５～２０日間隔で使用し、発生初期の密度を抑えます。その後は比較的防除効果の高い薬剤を使用して、急増を抑えます。収穫期が近づき、追加防除を実施する場合は、収穫３日前まで使用できる薬剤を使用してください。

使用時期	使用薬剤	使用量	使用回数
６月中旬～下旬	オンコルマイクロカプセル	2000倍	急増期の防除を徹底する
７月上旬	アドマイヤーフロアブル	4000倍	
７月下旬	アディオン乳剤	3000倍	比較的防除効果の高い薬剤で密度を抑える
８月上旬	アグロスリン乳剤	2000倍	
８月中旬	ダントツ水和剤	4000倍	スタークル水和剤も可

今月のあなたの運勢（2011年７月）

牡羊座（3・21～4・19） ちょっとしたことでピリピリしやすいとき。冷静な対応を意識してみて。手料理に凝ってみると、気晴らしになるはず